

令和2年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和3年2月10日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
魅力ある教育活動に努め、生徒の自ら学ぶ意欲と主体的な態度を育てる。	授業改善	わかりやすい授業、「自ら調べ、進んで他と関わり、学びを深める」授業づくりに努める。	B	ICT機器の活用は先進的な取り組みがなされている。また、授業での利用には二極化がある。生徒、職員ともに達成感が高いと思われるが、保護者には伝わっていない。感染症対策で授業参観、学校開放などを行っていないことが原因と思われる。	A	職員ICT機器の利用度、理解度に温度差がある。一人一台のタブレットについては、その利用の仕方を生徒だけでなく、保護者にも伝えてほしい。	ICT機器の研修の実施 ・新学習指導要領に応じた授業とコロナ禍での授業を考えていく。 ★タブレットの活用については、保護者用の案内を準備し、家庭で気をつけてほしいことを明確にしていく。
		教材教具の充実やICT機器の活用の推進に努める。	A				
諸活動を通して、思いやり、感謝の心、自らを律する心、感謝する心、挑戦する心を育てる。	人間関係づくり	考える道徳の授業づくりのいっそうの推進を図るとともに、社会の一員としての自覚を高め、主体的かつ建設的に他と関わる能力の育成をサポートする。	B	「考える道徳」を学年体制で実施した。生徒の満足度は高いと思われる。しかし、職員の達成感が低い。授業研究会などを行い、教師の技量を高めていきたい。授業後、生活態度に変化が見られることもあった。継続していきたい。	B	思いやる気持ち、感謝の気持ちを育ててほしい。 ・中学生の時期にしか学べないこともあるので、先生たちとがんばってほしい。	現職研修において、道徳の授業研究会の開催し、本校の目指す道徳教育を確立していく。 ★道徳の授業以外にも道徳教育的な視線で生徒と向き合える時間を大切にしていきたい。
生徒一人一人の持ち味を生かし、自らを高めるとともに社会（集団）に貢献しようとする意欲と態度を育成する。	生徒活動の活性化	生徒の自主的な活動を奨励し、その姿勢や成果から達成感と自己有用感を育てる。	A	臨時休業には保護者と職員は学習の遅れを心配しているが、生徒は自分でやっていると感じている。それに合った課題を与えていきたい。 ・生徒は学校や学年の活動に積極的に参画しようとしており、それを支援する教員との連携がある。ただ、それを受け入れられない個人などへの対応が課題である。	A	3年生が自主的といっても進路などがじゃまをして、そこまで考えることができない。そのときの先生たちの助言が大きい。 ・市の部活動も少なくなる動きがあるようだ。時間をうまく使う必要がある。	毎日の生活日記、QUの結果、生徒の心の悩みアンケートなどを今まで以上に有効活用していく。 ・感染症対策の改善について校医に助言をいただく。 ★生徒の困ったこと、いじめ、問題行動についてはすばやく対応するだけでなく、専門的な立場、保護者などを交えて対応していく。
		積極的・計画的な生活サポートを推進し、迅速な対応、組織的なサポートに努める。	B				
		感染症予防対策の徹底、体を鍛える組織的な教育活動を実践する。	A				
教育諸条件の整備と改善を図り、安心して学べる教育環境づくりに努める。	多忙解消に関わる業務改善	行事・諸活動・会議の見直しや精選を行い、よりよい教育活動をめざす。	B	コロナ禍で休業、部活動の中止、教育活動への制限などで、例年よりも勤務時間外にはゆとりが生まれた。各活動は今回だけでなく今後の見直しを加えて考えることもできた。 ・会計業務、部活動指導、支援が必要な生徒家庭への対応など、本校の教員以外のサポートがあり、助かっている。	B	先生たちのがんばる姿が必ずあるのだから、姿を知らない保護者が多いのは残念である。 ・いつも遅くまでがんでいる先生たちの健康が心配になる。対策を講じてほしい。	行事の精選という観点をもって、計画づくりを行う。 ・スズキ校務の活用を積極的に取り入れていく。 ・学年体制、教科部会体制を強化していく。 ★行事当日だけでなく、その準備中の生徒、先生の様子をホームページなどで保護者に伝えていく。
		事務作業の効率化、情報の共有化を高められる体制づくりを進める。	B				
教職員相互の信頼と協力体制を基盤とし、創意と活力に満ちた学校教育の創造に努める。	教師の力量向上と連携・協力	現職研修を計画的に進め、職員としての専門性を高める。	B	生徒へ与えられるタブレットをどのように活用していくかわからないことが多く、不安に感じることも多い。 ・教職員の適材適所をいかした教育活動の展開をみざしていることは概ね生徒には伝わっているように思われる。	B	タブレットなどの機器は便利であり、効率のよい学習がきたいできる。その半面で、道徳的なことが心配になる。情操教育がうすれてしまいそう。	相互授業参観を充実させ、日頃の授業を更に大切に作る雰囲気高める。 ★生徒用タブレットの活用についての研修を深める。使い方だけでなく、SNSの正しい利用方法と危険性についても生徒に指導できるようにする。
		職員の持ち味を生かし、連携・協力体制を強めた組織的な教育活動を展開する。	B				
保護者や地域との協力体制を築き協働して生徒の健全で前向きな生活を支援する。	保護者・地域との協力体制強化	学校・家庭・地域が協力し、安心で機能的な学校づくりを進める。	B	臨時休校、緊急事態宣言の発令などにも迅速に対応し、地域保護者に向けて情報を発信することができた。 ・地域との協力の場を感じる場面は少なかったが、対策を講じて実施したものからは、昨年度以上の協力感を感じた。 ・HPによる学校紹介を保護者地域に知ってもらいたい。	A	北中の努力は理解している。ホームページの活用を工夫してほしい。アドレスやQRコードを年度初めに校区に配付してみてもどうか。 ・保護者は学校の様子を知りたい。	学年、学級通信を中心に保護者だけでなく、地域にも学校での様子を伝えていく。そのためにホームページの有効活用していく。 ★保護者や地域が協力できるように行事の内容の考慮し、北部校区の地域のよさを活用していく。
		HP、学級学年通信を積極的に活用し、生徒の活動などの情報発信に努めている。	A				

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価：自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】